

九戸村 戸田元村自治会
自主防災組織育成支援事例報告

九戸村・岩手大学地域防災研究センター

■戸田元村の目標・スケジュール

○課題と目標（九戸村計画書より）

- ・戸田元村自治会はコミュニティ、交通安全活動などは盛んな反面、これまで大規模な災害等を経験していないことなどから、防災に関する意識が低い。
- ・火災発生や災害時には**消防団**のみが活動している状況。
- ・消防団等、限られた団体だけでなく、**地域一体となった防災組織・体制が築けるよう環境を整えたい。**
- ・地域防災マップの作成等により防災への関心を高めてもらいたい。
- ・関係団体、要配慮者への連絡（伝達手段）体制を確立させたい。

○スケジュール

2020年

10/8：①村総務企画課打合せ

10/26：②戸田元村役員打合せ

11/25：③戸田元村役員打合せ

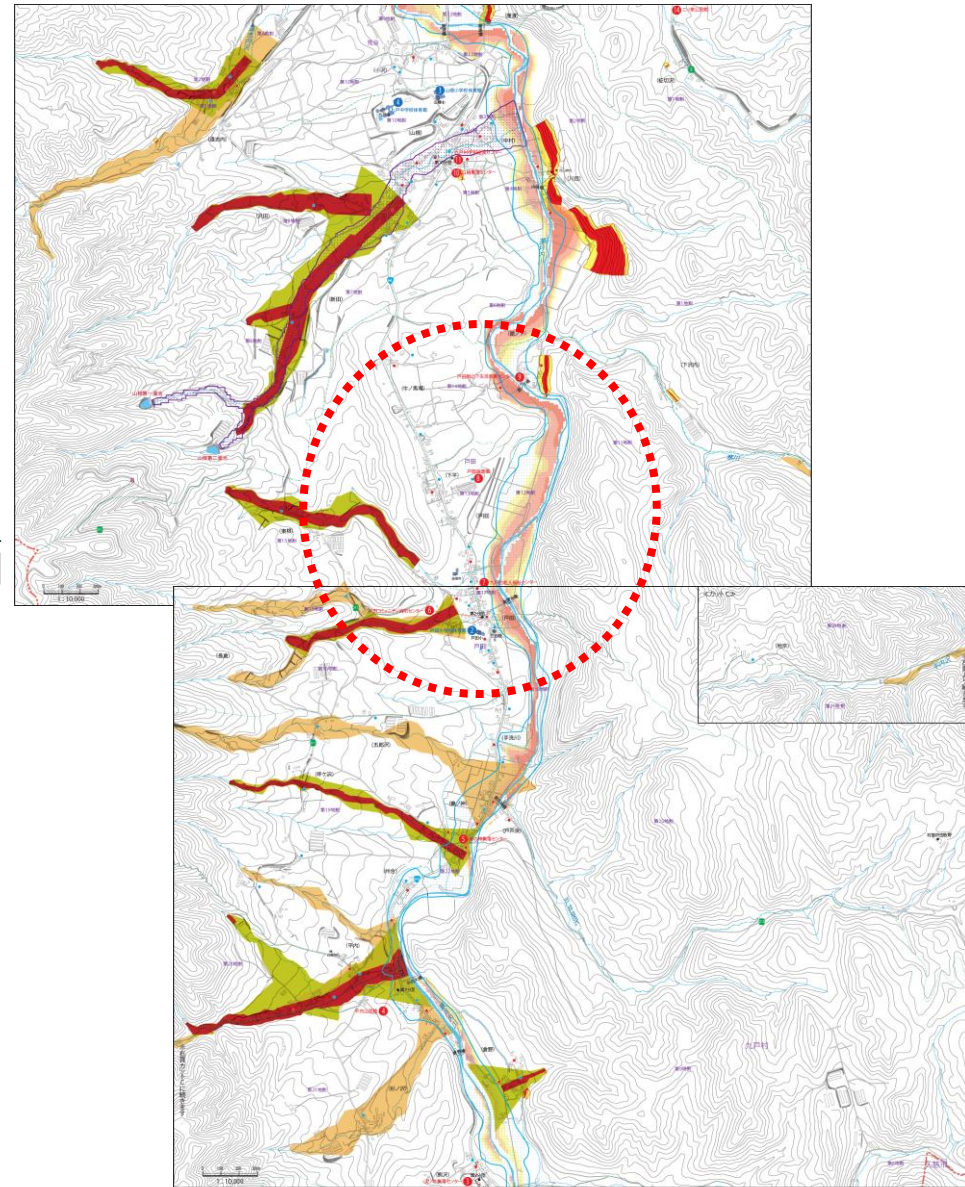
12/22：④DIGによる防災課題の把握

2021年

2/22：⑤振返りと今後の取り組みについて

①課題・目標・対象地区の情報共有

- ・ 村内の雨量が年々増加傾向にあること、令和元年度に河川浸水想定が見直され、浸水エリアが拡大していることから、発災の不安を感じている。
- ・ 消防団員180名中、役場職員が30名程度を占めるため、実働人数は150名程度となっており、消防団の業務量に対しマンパワーが不足しがち。
- ・ 地区では**独居高齢者多いものの、災害等への危機感が薄い。**
- ・ モデル地区は瀬月内川の氾濫原を含む狭長盆地の上に位置していると思われ、想定のとおり河川氾濫と土石流が生じる可能性がある。



九戸村防災マップより

②現地自治会会長聞取り

【過去の災害履歴について】

- ・ 瀬月内川の支川の氾濫で一部の宅地が浸水した程度。土砂災害の発生もなかった。
- ・ 洪水警報で避難所開設実績あり。
- ・ 支川の寒川は数年に1回の頻度で道路冠水を生じている。
- ・ 地震についても地盤の影響か、大きな被害を受けたことはない。

【構成世帯について】

- ・ 上・下・舘下の3行政区で構成、16班、世帯数は約180世帯。
- ・ 消防団は2分団19名。昼間は村内に10名くらいが残る。
- ・ 独居高齢世帯が増加傾向だが、発災時の安否確認や避難路の危険個所の洗い出しは未実施。民生児童委が活動中。

③課題認識のための作業提案

【課題認識のためDIGを提案】

- ・ 前回、大規模災害の経験がないため、どのようなことが起きるか想像できないとの発言があり、参加者の課題の把握・認識を促すため、地域の状況と災害想定を重ね合わせて考えるDIGを提案した。
- ・ 自治会からの意見も踏まえ、特に、独居高齢世帯など災害で困る人がどこにいるかを、新しい河川浸水想定範囲も用いた整理を行うこととした。
- ・ コロナ禍への配慮のため、少人数の参加として、自治会3役、集落の西側、南側、川沿いの代表者、村觸澤主任の7名を予定。

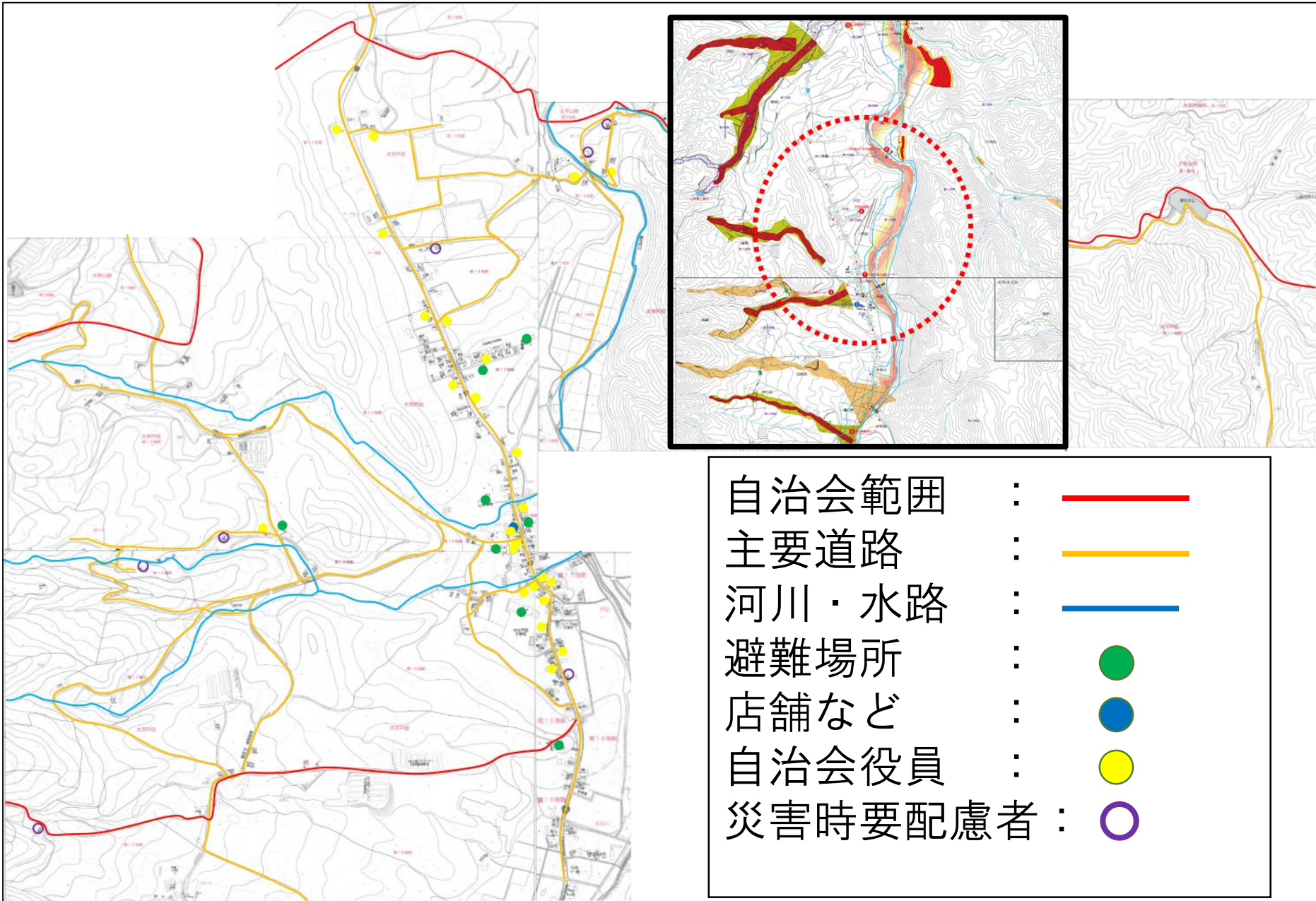
④DIGによる災害・防災上の課題認識

【DIGから見えてきた防災上の課題】

- ・ 平日の日中は「支援を求める人」の数に対して「支援できる人」の数が想像より少なかった。
- ・ 安否確認では置き去りをなくするための早期避難が必要と感じた。
- ・ 浸水想定範囲と土砂警戒範囲に分布する住家を整理したところ改めて危険な箇所が多いことに気づかされた。
- ・ 被災が気になる箇所
 - ①西側丘陵傾斜地からの土石流、
 - ②瀬月内川からの浸水による館ノ下と元村の分断、
 - ③普段は水無しの水路が大雨時には国道からの水が流れ込んで冠水している。



④ DIGによる災害・防災上の課題認識



⑤振返りと今後の取組み方針の検討

【自主防災活動の自己評価】

・自主防災活動の項目を提示して、現在の自治会活動のなかで、どれだけ対応ができるかを採点してもらい、今後の取組みの手がかりとしてもらった。

普段の自治会活動や防火等の関連項目は比較的、評価が高いものの、**防災に関する取組みは低評価**だった

【役員会での活動成果の共有】

- ・前回までの活動振返りのため、活動記録シートを用いておさらいをした。
- ・今年度の**活動成果を次回以降の役員会にて共有**し、自治会内の活動課題について「防災」を提起することとなった。
- ・自主防災組織は立上げの見込み。

平常時の取組み	
1(1)自主防災組織の設立・体制の整備	【4. 不十分】 ・ そもそも未結成である
1(2)活動拠点の整備・充実化	【3. 少しかけている】 ・ 戸田支所を自治会活動の拠点としている
1(3)防災用資機材・備蓄の整備・点検	【3. 少しかけている】 ・ 役場と準備を進めている
1(4)避難場所・避難所避難経路等の整備	【2. ほぼできていない】 ・ 役場の職員が参加する（※災害時のイメージができていない）
1(5)防災講演会などの開催による防災知識の普及	【4. 不十分】 ・ 社協主催の防災士の講演会は開催があったが、...
1(6)防災・避難訓練など各種訓練の実施	【4. 不十分】 ・ 全然できていない
1(7)避難所開設・運営訓練の実施	【4. 不十分】 ・ 全然できていない
1(8)活動・避難所運営等各種マニュアルの作成	【4. 不十分】
1(9)防災関連情報の周知方法の整備	【3. 少しかけている】 ・ 自治会便りを発行しており、実施しようとするば取り組める
1(10)地域の点検や地域防災マップの作成	【2. ほぼできていない】 ・ 今回の活動で取り組んだ
1(11)避難行動要支援者の情報把握・共有	【3. 少しかけている】 ・ 隣近所では把握できているはず
災害発生時の取組み	
2(1)避難の実施・避難所開設・運営への参画	【一 回答なし】 ・ 経験がなく回答
2(2)出火防止及び初期消火	【2. ほぼできていない】 ・ 行政区での防火の取組みがあるため
2(3)救出・救護活動の実施	【一、回答なし】 ・ 消防・警察に任せたい
2(4)地域住民の安否確認	【3. 少しかけている】 ・ 隣近所では意識を持っている
2(5)情報の収集・伝達及び関係機関との連絡	【3. 少しかけている】
2(6)炊出し・救護物資の配布及びその協力	【1. よくできていない】 ・ 夜間で人手がある場合は可能だが、日中だと対応が難しい。
戸田元村地区に独自に必要な検討事項	
【検討すべき具体的な事項】 ・ 自治会役員で成果を共有 ・ 防災の意識は地区で持ってもらいたいと考えている ・ 自治会のなかであまり議論がされてこなかったため、新たなテーマとして立ち上げる。	
【取組事項】 ・ 自主防災活動（今回の活動）の周知	



⑤ 振り返りと今後の取組み方針の検討

令和2年度 戸田元村自主防災活動報告

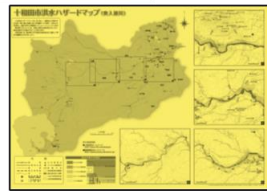
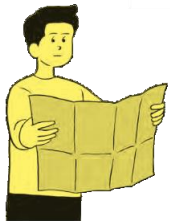
戸田元村自治会では、村と県、岩手大学のサポートを受けて自主防災組織の役員で、地区の範囲での災害時に心配なことや地域的な弱点の洗い出しに取り組みました。



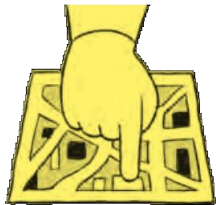
地域で予想される災害や災害時に心配な点を見つけるため、地図上での防災点検を取り組みました。

【戸田元村の防災点検・DIGの実施】

DIGとは？



■ 地域の図面と自治体発行のハザードマップ等の情報から地区独自の防災マップを作る



■ 避難場所や避難所の確認



■ 地域の危険箇所や防災資源も把握

戸田元村での災害要素・心配事

- 土砂災害
- 高齢者（独居）等の見守り・安否確認
- 瀬月内川からの氾濫
- 災害前の活動できる人員の確保
- 土砂・洪水被害での道路の被害
- 日中の人で不足



整理の結果、戸田元村で心配される災害“土砂災害”，“水害（一部）”の被害が心配される範囲の把握と、普段から活動可能な自治会・自主防災組織役員の分布を整理しました。

裏面へ→

■戸田元村自治会 成果と課題（今後の目標）

【成 果】

- ・ 地域防災マップの作成により，日中における災害時の支援を期待できる人員が予想より少ないこと，一部の避難所等は浸水する可能性があること，災害の状況によって地区内で「分断」が生じることなど，具体的な災害リスクを認識できた。
- ・ 自主防災活動項目の自己採点により，活動内容への理解と地域の自主防災活動力について具体化・認識する機会を得られた。
- ・ 地域防災マップ，活動振り返りシート等を利用して，自治会役員間で取り組み結果を共有，自治会内に「防災」の活動課題を提起することに。

【課 題（今後の目標）】

- ・ 自主防災組織の立上げと自治会内での周知。
- ・ 災害時要配慮者等の支援体制の検討
- ・ 災害時に分断が懸念される地域の早期避難・安全確保に関する検討